

雫石あねっこバスの経年評価 ～ 運転免許保有利用者の動向 ～

岩手県立大学 フェロー会員 ○元田 良孝
岩手県立大学 正会員 宇佐美誠史
新岩手農業協同組合 非会員 上路 幸奈

1. はじめに

岩手県雫石町（人口約 17,000 人、面積 609 km²）では廃止代替バスとして平成 16 年から町内でデマンドバス（通称あねっこバス）を運行している。運行開始当初は我が国のデマンドバス黎明期で高コストの配車システムが流行する中、情報システムを用いず低コストで運行を実現した雫石町には全国から視察も多く訪れた。運行開始から 10 年が経過したが、基本的なシステムは殆ど変わっていない。一方バスを取り巻く周囲の状況もかなり変化を遂げており町の総人口は 19,268 人から 17,649 人へ減少したが、高齢者は年々増加しており、高齢化率は 24.9%から 30.5%へ上昇した。

このような背景から、約 10 年を経過したあねっこバスの評価を行い、今後の改善に資するべく調査を行い、平成 16 年度に当方が行った同様の調査^{1) 2)}と比較した。今回は紙面の都合上運転免許保有者の利用動向について報告する。

2. あねっこバスについて

あねっこバスは電話で予約をするデマンドバスで、町中心部を中心に放射状に 6 路線ある。停留所（200 か所）は決められており、各路線平日 6 往復、休日 3 往復運行している。均一料金で、大人 200 円、小学生 100 円となっており、予約は 30 分前までにすることになっている。運営は町から NPO に委託され、実際の運行はタクシー会社が NPO から受託している。年間輸送人員は平成 19 年度に 32,500 人のピークを迎えたが、最近は横ばいで平成 24 年度の輸送人員は 25,000 人程度である。

キーワード：デマンドバス、利用者、運転免許

連絡先 〒020-0693 岩手県滝沢市巣子 152-52
岩手県立大学総合政策学部 TEL 019-694-2732
motoda@iwate-pu.ac.jp

表 1 調査の比較

調査年度	平成16年度	平成25年度
対象	利用登録者	町民全体
配布方法	郵送	郵送
回収方法	郵送	郵送
実施日時	平成16年12月22日	平成25年11月25日
回収期限	平成16年12月31日	平成25年12月9日
配布数	1000通	1170通(3510票)
回収数	430	481通(986票)
回収率	43.0%	41.1%(28.1%)

3. 調査方法

雫石町民を対象にアンケート調査を行い、10 年前のデータと比較した。今回は町民全体を対象にして、電話帳から無作為抽出をして世帯主に調査票を郵送した。1 世帯当たり調査票を 3 通同封し、家族にも回答を依頼した。質問項目は日常の交通手段に関する項目が 2 問、あねっこバスの利用と評価に関する項目が計 9 問、属性と自由記入欄で計 15 問設け、全 26 問となっている。

平成 16 年度の調査では、バス利用登録者が対象であった。バス利用のための登録は当初は必要であったが、現在は小学生のみ登録が必要と変更されている。このため対象者が異なるので、今回調査のうちバス利用登録者と似ていると考えられるあねっこバス利用者の集計結果と平成 16 年度の結果を比較した。今回の調査ではあねっこバス利用者は回答者のうち 100 名であった。今回の調査と 16 年度の調査の比較を表 1 に示す。

4. 調査結果

(1) 運転免許保有の有無

運転免許保有の有無を聞いたところ、回答者全体の 81.4%が保有しており、あねっこバス利用者に限ると、49%であり、運転免許返納者は 15.3%であった（図 1）。平成 16 年度の調査では運転免許保有者はあねっこバス利用登録者の 17.4%とほぼ 1/3 である。バス利用登録者を利用者とみなすと、約 10 年の

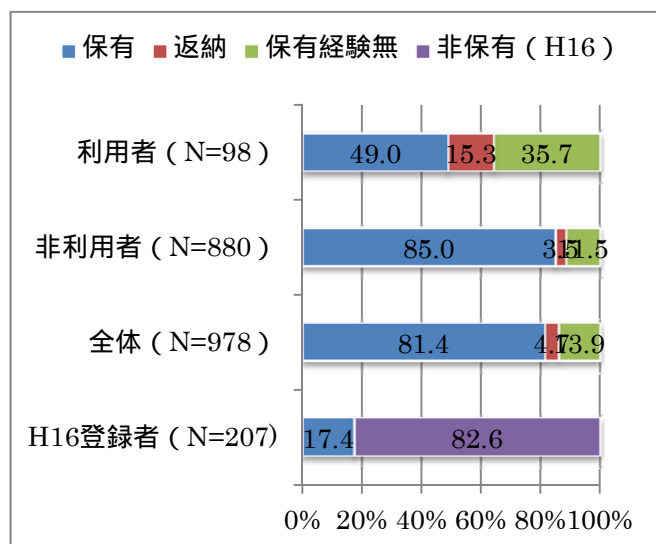


図1 あねっこバス利用者と運転免許保有

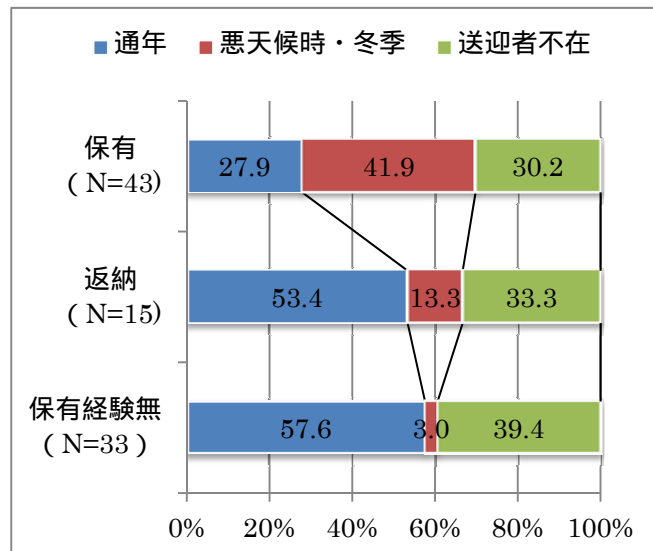


図3 バス利用選択と運転免許保有

間に運転免許保有者は約3倍に増えたと考えられる。なお運転免許返納者は平成16年度の調査では聞いていない。

(2) 利用頻度

利用頻度について、運転免許保有の有無・返納別に集計した結果を図2に示す。図から明らかなように、運転免許保有者の利用頻度は、非保有者や返納者に比べ少ないことが分かる。これは自分の車の運転とバス利用を使い分けているものと考えられる。

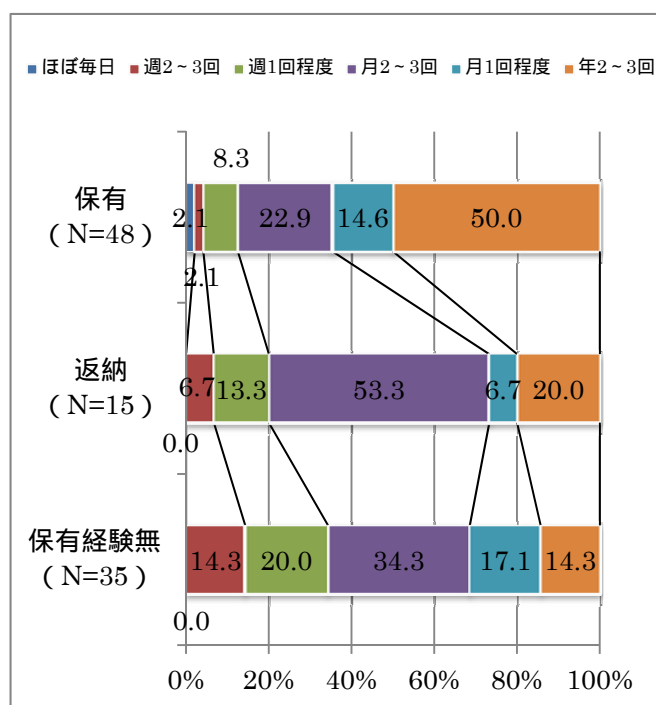


図2 運転免許保有有無とバス利用頻度

(3) バス利用の選択条件

次にどのような場合にバスを利用するか、通年、悪天候時・冬季、送迎者不在の3つの選択肢で聞いたところ、図3のような結果になった。運転免許非保有者、返納者は通年の利用が半数以上であるが、運転免許保有者は通年利用は少なく悪天候時・冬季のみと回答した者が4割以上である。

5. おわりに

近年バス利用者が微増ないし下げ止まりになったとの報告は少なくない。この背景として高齢運転免許保有者がバス利用し始めたことが推測される。雫石町のケースでも運転免許保有者のバス利用増加が確認された。ただし高齢運転免許保有者のバス利用は限定的で、利用頻度も比較的低く、利用するときも悪天候時など運転が難しいときに限っていると考えられる。このように運転免許を保有している高齢者でも公共交通の必要性はあり、今後地方の公共交通を計画する際に、高齢運転免許保有者を積極的にバスに誘導してゆくことが必要と思われる。

参考文献

- 1) 金田一真矢：公共交通が地域に与えるインパクトに関する研究、平成16年度岩手県立大学総合政策学部卒業論文、平成17年2月
- 2) 元田 良孝、高嶋 裕一、宇佐美 誠史、金田一 真矢：DRT（デマンドバス）に関する幾つかの考察、第31回土木計画学研究・講演集、2005年6月